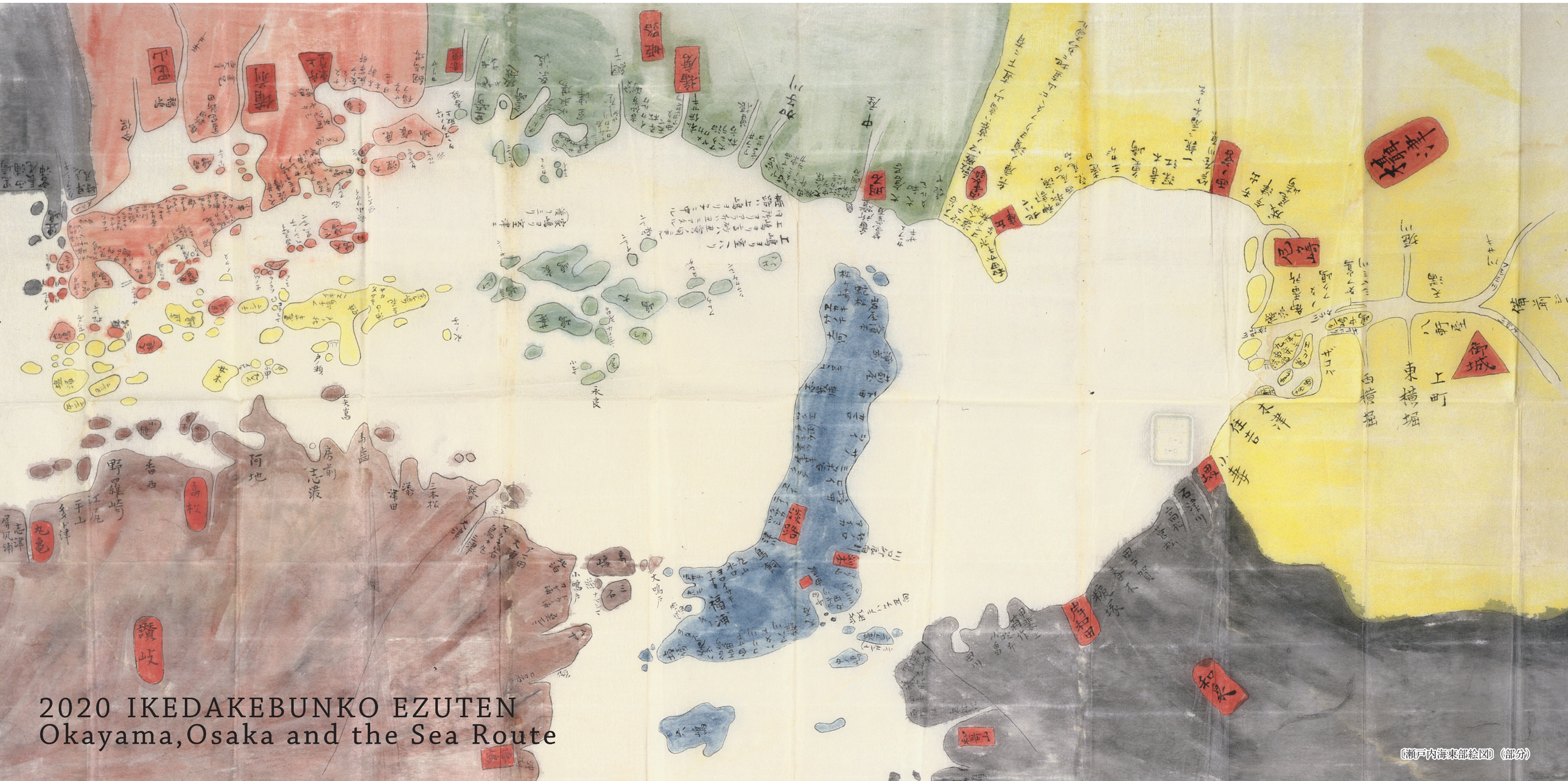
令和２年度企画展　池田家文庫絵図展

岡山・大坂と海の道

岡山大学附属図書館
Okayama University Libraries

岡山シティミュージアム
OKAYAMA CITY MUSEUM

林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART



2020 IKEDAKEBUNKO EZUTEN
Okayama,Osaka and the Sea Route

〔瀬戸内海東部絵図〕（部分）

令和二年度
企画展

池田家文庫絵図展

岡山・大坂と海の道

Okayama,Osaka and the Sea Route

■会　期　　令和２年 10 月 31 日(土)～11 月 15 日(日)

■会　場　　岡山シティミュージアム５階 展示室

■主　催　　岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム

■共　催　　林原美術館

■後　援　　岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

ごあいさつ
Greeting

岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムは、共同で企画展池田家文庫絵図展「岡山・大坂と海の道」を開催します。池田家文庫絵図展は、岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づく事業であり、本年で16回目の開催となります。

本展覧会は、岡山大学附属図書館が所蔵する江戸時代の備前岡山藩池田家の藩政資料である池田家文庫を、広く地域社会の皆様に公開し、親しんでいただくことを目的に企画しています。中でも池田家文庫絵図展の特徴のひとつでもある地図資料「絵図」を中心に展示します。

江戸時代は、大量輸送に適した陸路と輸送手段が未発達であったことから、海運、河川舟運など水上運輸が物流の主力でした。西廻り航路の開設もあいまって、人の往来が増えるにつれ、下津井、日比、小串、牛窓などの風待ち、潮待ちの港町が形成され、発展していき、瀬戸内海沿岸地域は全盛期を迎えます。

本展示は、海を通した岡山藩と大坂間のつながり、とくに政治、経済、情報ネットワークの一節が見えてくる展示となっております。

また、林原美術館との共催のもと、本展のテーマに沿って選出された林原美術館の収蔵品を間近にご鑑賞いただけます。これにより、岡山藩主池田家の資料たちが、約70年ぶりに邂逅(かいこう)することになりました。

この展覧会を通して、皆様が岡山ひいては日本の歴史に興味や関心を抱かれ、池田家文庫を地域の共有の財産であると感じていただければ、主催者として望外の喜びと存じます。

2020年10月31日

岡山大学附属図書館
館長　今津勝紀
岡山シティミュージアム
館長　近藤雅明

関連行事
Event

開会式＋オープニングトーク

日　時　　令和２年10月31日（土）午前９時50分～午前10時30分
場　所　　岡山シティミュージアム４階 講義室
講　師　　岡山大学社会文化科学研究科講師　東野 将伸

講演会「西国の武士、大坂に出張する ―蔵屋敷と大坂城加番―」

日　時　　令和２年11月７日（土）午後２時～午後４時（開場午後１時30分）
場　所　　岡山シティミュージアム４階 講義室
講　師　　兵庫県立歴史博物館長　藪田 貫

凡例
Introductory

1　本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが令和２年10月31日（土）～11月15日（日）の会期で開催する「企画展 池田家文庫絵図展『岡山・大坂と海の道』」の図録である。

2　展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は岡山大学附属図書館所蔵の資料は図版番号、資料名、員数、年代、池田家文庫整理番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。林原美術館所蔵の資料には林１から始まる番号を付し資料名、員数、年代、林原美術館所蔵品番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。

3　本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。林１～林３の写真は林原美術館の提供による。

4　本書の総説・展示資料解説は、岡山大学社会文化科学研究科講師 東野将伸が執筆した。林１～林３については林原美術館主任学芸員 橋本龍が執筆した。本書の編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

Ⅰ　令和２年度 池田家文庫絵図展
「岡山・大坂と海の道」解説　*1*

Ⅱ　出展資料解説　*3*

Ⅲ　出展資料目録　*20*

Ⅳ　池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録　*21*

はじめに

平成10年（1998）度の池田家文庫等貴重資料展（於：岡山大学附属図書館）では、「岡山藩と海の道」と題して、岡山藩に関わる航路や湊についての史料を展示した。そして、平成27年（2015）度の池田家文庫絵図展は「京都と岡山藩」、翌年度には「江戸と岡山藩」というテーマでの展示を行った。今年度は、岡山藩における海上交通の仕組みと瀬戸内海海運の内容をふまえつつ、西日本の政治・経済・文化などにとって重要な位置にあった「大坂」と岡山藩との関係をみていく。

(1) 瀬戸内海沿岸と船

瀬戸内海は江戸時代の西日本における重要な航路の１つであり、岡山藩や領民も日常的に交通に船を用いていた。池田家文庫の国絵図の中にも、海岸の地形や水深、航路などの情報が詳細に記述されているものがみられる。

岡山藩では、御船手とその長である船手奉行が海上交通や海事行政を監督しており、船手屋敷や役人・加子屋敷は城下町南部の船頭町におかれていた。岡山藩の御船入は船頭町よりさらに南の七日市村にあり、藩が所有する多くの御船が停泊していた。民間の浦船も、有力廻船業者が任じられた船年寄を通じて把握・管理されており、船持は藩に対して船の数や大きさに応じた運上金を上納していた。瀬戸内海東部沿岸を領知する岡山藩にとって、海上交通や海事行政を平穏に保つことは、藩の存続と幕府への奉仕の双方のために重要な事柄であった。

江戸時代における大型の船の大半は帆船であったが、明治初期には岡山と大阪・東京を結ぶ蒸気船も定期的に運航しており、岡山城下から始まる航路も引き続き機能していたようである。徐々に鉄道輸送との対抗関係が顕在化していくことになるものの、瀬戸内海航路は近現代の海上交通、ひいては日本における交通全般においても重要な位置にあった。

(2) 大坂・岡山をむすぶ海の道

岡山から大坂へ向けて出発した船は、播磨国・摂津国の沿岸へ寄港する場合が多くみられた。特に摂津国兵庫津には岡山藩の浜本陣がおかれ、岡山－大坂を結ぶ蔵米輸送航路の中継地として重要な位置にあった。諸国の商船や北前船も兵庫津に寄港して積み荷を売買しており、大坂との間で商品をめぐる対立がみられたものの、兵庫津は瀬戸内海沿岸の商業の拠点の１つとして機能していた。そして、諸国から大坂へ海送された商品は、上荷船・茶船・過書船・伏見船などの川船に積み替えられ、大坂市中を通る川を通じて各所へ運ばれていた。

池田家文庫には大坂や大坂城を描いた絵図が複数みられるが、これらは藩の業務に利用するためだけでなく、幕府から任せられた役との関わりの中で作られたものもあったとみられる。詳細は不明だが大坂木津川口での朝鮮通信使の順列や船について記した絵図が残存しており、幕府や諸藩と密接に連携し、様々な情報を集めたうえで応接を行っていたことがわかる。

(3) 大坂における岡山藩

大坂夏の陣によって豊臣家が滅亡し、大坂に徳川家の大坂城が建設される際、池田光政（当時は鳥取藩主）もこの普請に参加している。池田家は、これ以前に姫路城をはじめとする城郭建築を手がけた経験があり、また西日本の有力大名であったこともふまえて、大坂城の普請への参加が求められたとみられる。この時に幕閣や将軍秀忠から池田光政へ宛てられた奉書・直状が残存している。

大坂は江戸時代の西日本における重要な政治的・経済的拠点であり、岡山藩も蔵屋敷と大坂

留守居をおいていた。岡山藩の蔵屋敷は、大坂の中之島・天満・西信町に設置されており、中でも中之島の蔵屋敷が広さ・機能の双方の点から重要なものであった。中之島には多くの藩の蔵屋敷が立ち並び、国元からの米をはじめとする品物を取り扱っていた。岡山藩は、これらの品物を取り扱う商人や有力な両替商と関係を有しており、その中でも山中（鴻池）善右衛門との関係は重要なものであった。岡山藩との関係を有する商人・両替商の中でも、山中（鴻池）善右衛門は圧倒的な扶持米を得ており、この背景には継続的に岡山藩へ巨額の領主貸を行っていたことがあった。

中之島の蔵屋敷には大坂留守居が詰めており、蔵屋敷の監督に加えて、上方の幕府役所および有力者との折衝、諸藩の留守居とのやりとり、国元への上方の情報の伝達などの役割を担っていた。諸役に任じられた際、藩士は藩主に対して誓詞を捧呈しており、大坂留守居の起請文の内容からは、職務の内実や職務を通じた大坂町人との関係がうかがえる。

(4) 都市大坂と岡山の関係

大坂と岡山の関係を示す史料のうち、近世後期～幕末期の世相を知ることのできる史料を展示している。

天保8年（1837）2月19日、大塩平八郎を首魁とする一党が大坂にて武装蜂起したが、その日のうちに敗走している（大塩平八郎の乱）。当日中には諸藩の大坂留守居の間で大塩一党に関する情報が廻状で伝えられ、岡山藩大坂留守居の高尾助太は、翌20日に国元へ向けて情報を記した書状を送っている。大塩平八郎の乱が幕府・諸藩にとって大きな衝撃であったことに加えて、国元－大坂間の情報ネットワークの重要性がうかがえる。

備中国足守藩（現在の岡山市北区足守）出身の緒方洪庵は、現在の岡山県域にあたる地域と大坂を結ぶ人物として著名である。万延元年（1860）、岡山藩主の体調不良（手の痛み・腫れ）にともなって緒方洪庵が招聘されており、この時の洪庵の待遇や供の人数について、国元と大坂留守居との間で何度もやりとりがなされている。緒方洪庵の力量が広く知られていたことや、西洋医学への信用の高まりがうかがえる。

幕末期、岡山藩は幕府より海岸防備の任務を命じられている。嘉永6年（1853）からは房総半島の警備、安政5年（1858）からは房総半島から代わって大坂表の海岸警備、文久3年（1863）からは大坂表の海岸警備を免じられ、代わりに備中沖・塩飽海警備を命じられている。この時、岡山藩は引き続き大坂の陣屋を使用できるよう願い出ており、この願い出は認められている。海岸防備は岡山藩の財政を逼迫させる一因となったが、この時期には藩内で様々な軍制改革や防備体制の強化が行われており、藩の内外において最幕末期の情勢に対応するための活発な動きがみられた。

岡山大学社会文化科学研究科　講師　東野将伸

〔参考文献〕

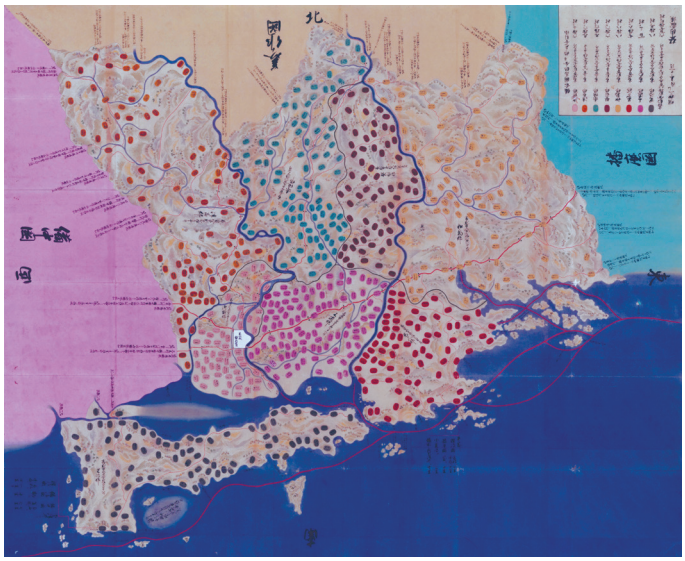
倉地克直『絵図と徳川社会　岡山藩池田家文庫絵図をよむ』（吉川弘文館、2018年）
倉地克直「琉球使節と岡山藩」（『文化共生学研究』第13号、2014年）
谷口澄夫『岡山藩政史の研究』（塙書房、1964年）
岡山県史編纂委員会編
『岡山県史 近世Ⅰ』、『同 近世Ⅱ』、『同 近世Ⅲ』、『同 近世Ⅳ』、『同 近代Ⅰ』（岡山県、1984～1989年）
岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会編
『池田家文庫資料叢書1 御留帳御船手』上・下（岡山大学出版会、2010年）
新修大阪市史編纂委員会編『新修大阪市史 第三巻 近世Ⅰ』、『同 第四巻 近世Ⅱ』（大阪市、1989～1990年）
新修神戸市史編集委員会編『新修神戸市史 歴史編Ⅲ 近世』（神戸市、1992年）

【瀬戸内沿岸と船】

1　備前国絵図（複製）

1鋪　明和2年（1765）11月
T1-2　163.2 × 199.8

岡山藩4代藩主池田宗政から5代藩主池田治政への藩主交替にあたり、幕府から派遣された監使（目付、中坊左近・渡部久蔵）に提出された国絵図の控である。元禄国絵図をもとに作成されているが、縮尺は約60％とやや小さい。郡名、村名、航路、陸路、国境についての情報など、所領把握のために重視された情報が書き込まれている。



2　備中国絵図

1鋪　年月日未詳
T1-26　104.0 × 67.0

1と同じく郡名、村名、航路、陸路、国境についての情報などが書き込まれており、郡ごとに平地の色が分けられている。岡山藩は備中国のうち朱印高2万5975石を領知しており、この他に鴨方藩（2万5000石）、生坂藩（1万5000石）の2つの支藩があった。備中国には多くの領主の所領がみられたが、本絵図には領主についての記述はみられない。

3 〔備中国領分海岸絵図〕

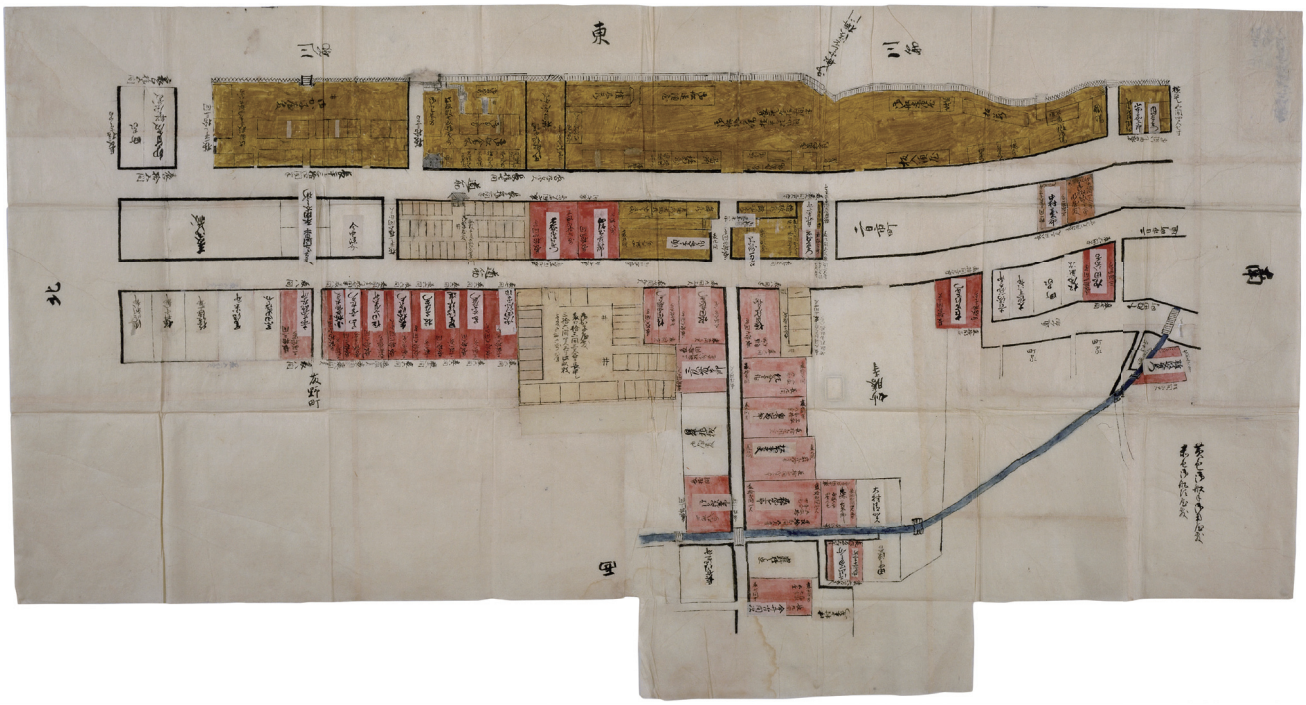
1枚　年月日未詳
T8-31-2　61.8 × 90.2

備中国浅口郡の鴨方藩領の村々と沿岸が示された図。往来、砂浜、山林が鮮やかに色分けされている。航路は示されていないが、沖合の水深についての記述があり、海の色の濃淡も水深の深浅を示しているとみられる。

4　御船手屋敷絵図

1枚 〔安政2年（1855）正月ヵ〕
T8-33　70.8 × 132.7

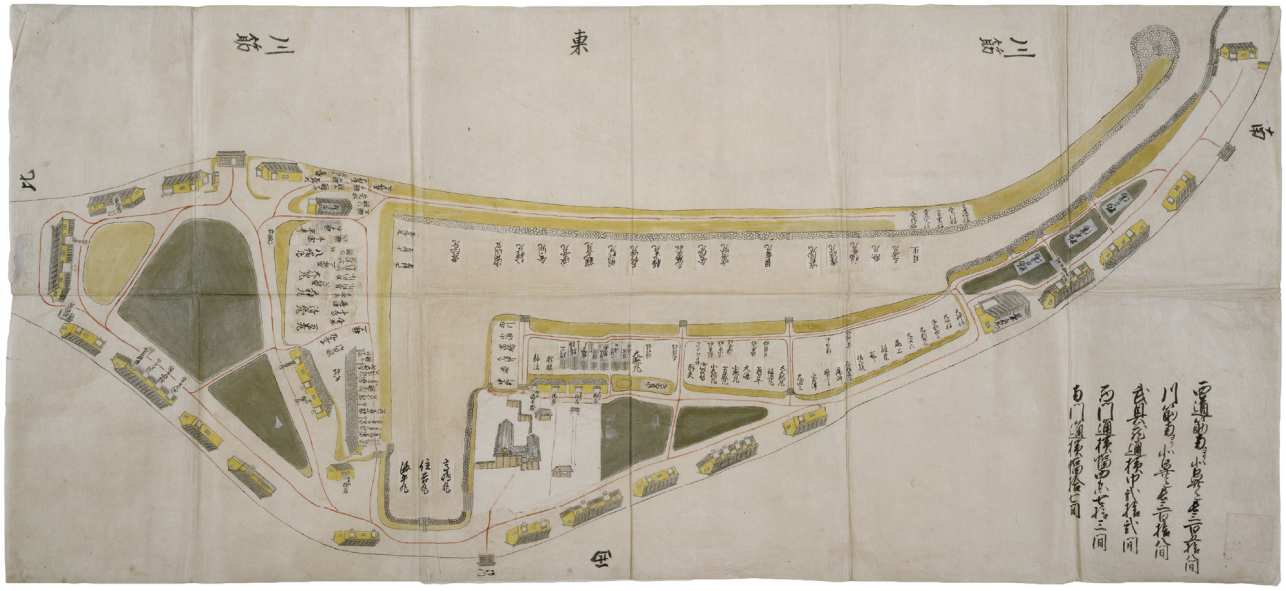
岡山藩御船手は、岡山藩の海上交通・海事行政を担当した部署であり、船奉行が長としておかれていた。御船手の御用屋敷は城下町南部の船頭町にあり、本図はこの一帯を描いている。大川（旭川）に面して御船手の各種蔵・番所・会所がおかれ、船手役人・船頭・加子の屋敷もこの一帯に集中していた。



5　〔御船入絵図〕

1枚　年月日未詳
T8-34　56.2 × 123.4

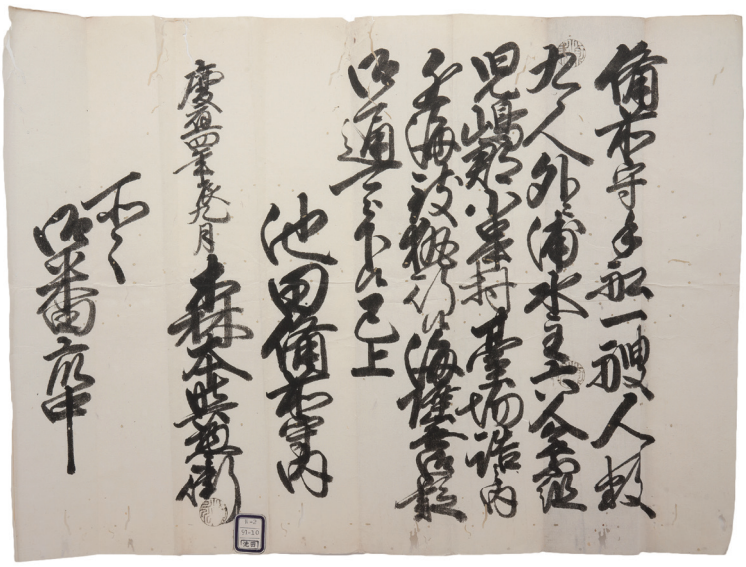
岡山藩の御船入の全景と御船繋ぎの様子を示した図。岡山藩の御船入りは延宝2年（1674）に城下南部の七日市村に移されており、大小各種の御舟が留められていた。周囲には船道具蔵や加子長屋などが立ち並んでおり、岡山藩の船運の拠点であった。



6 〔池田備前守手船通行手形〕

1通　慶応4年（1868）9月
N2-91-10　35.2 × 48.7

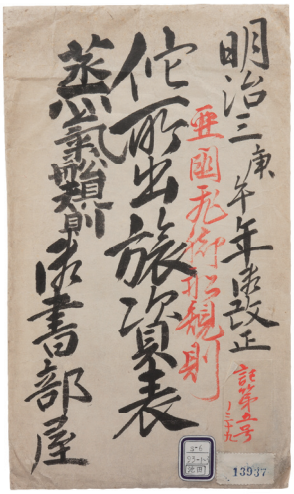
元治元年（1864）以降、岡山藩は海岸防備のため、児島郡・邑久郡の6ヶ所に海岸砲台を設置している。本史料は、岡山藩池田家が所有する手船であり乗員や水主の身元が確かであること、児島郡小串村台場に所属していることを証明するものであるとみられる。



7 岡山蒸気船規則

1枚　辛未〔明治4年（1871）〕正月
S6-93-（2）　24.3 × 32.9

岡山城下上内田町の廻船宿である佐渡屋又平が発行したものであり、運航日程や運賃が記載されている。1年間に東京行きの蒸気船が4度、大阪行きが10度出帆しており、各種荷物の運賃も細かく定められている。

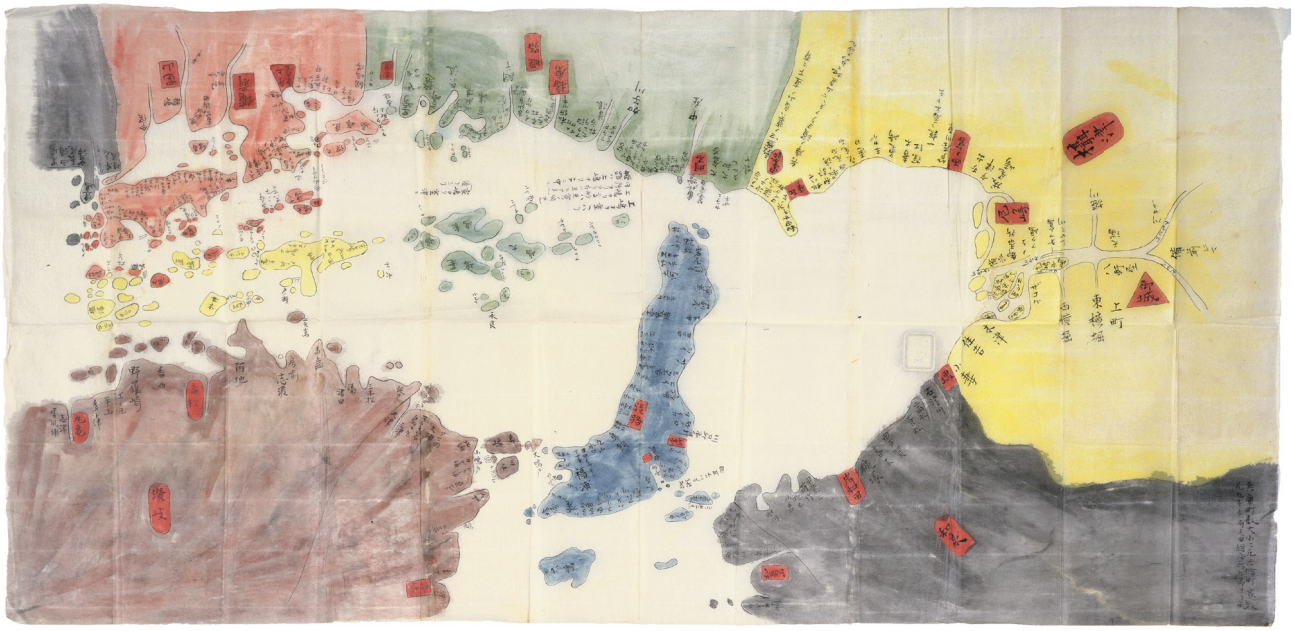


【大坂・岡山をむすぶ海の道】

8 〔瀬戸内海東部絵図〕

1枚　年月日未詳
T8-4-3　40.1 × 83.9

瀬戸内海東部の国々が色分けして描かれている。沿岸部の町・村や地名が細かく書かれており、絵図の右下には「兵庫町数大小ニ凡六拾町、家数凡九千余有之由、網屋新九郎ヨリ承」との記述がある。網屋新九郎は摂津国兵庫津の岡山藩浜本陣であり、兵庫周辺の記述が詳しいことからも、同人から得た情報をふまえつつ本絵図が作成されたものとみられる。



9　淀川筋図

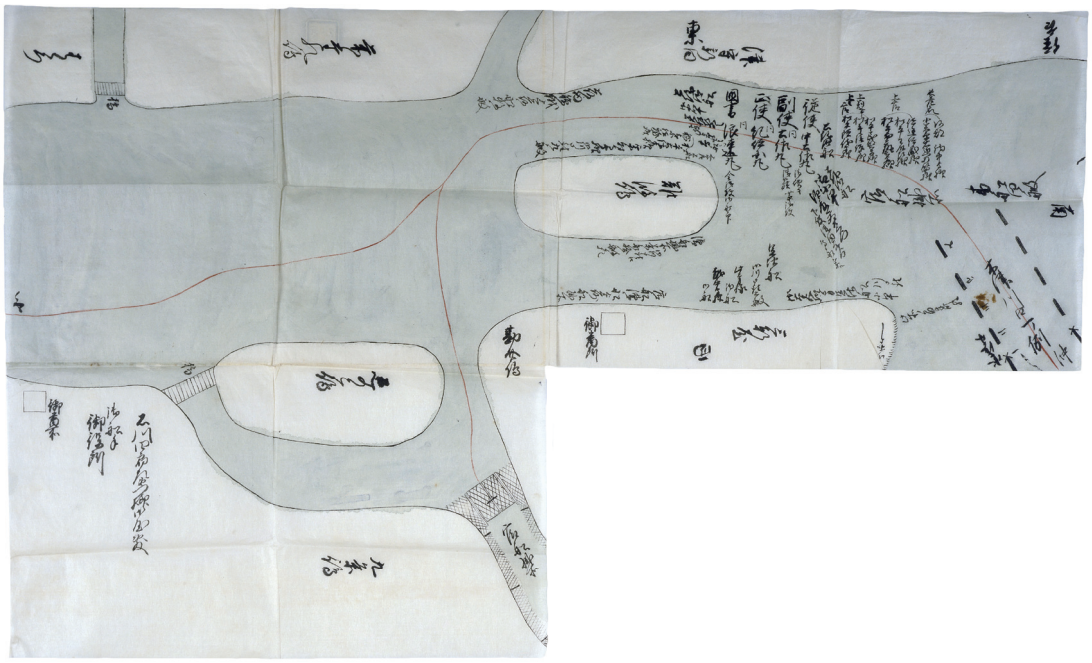
1枚　弘化4年（1847）
T9-7　40.5 × 65.4

「大坂指掌図」の裏面に、京都伏見の豊後橋から大坂安治川・伝法・尼崎の河口までの「淀川筋図」が描かれている。川筋や主要な町が彩色で描かれ、さらに道法、各地の名産物、主要な橋の道幅・長さなどが記されている。「故花畑」と書かれた貼り紙が貼付されており、岡山藩藩学で使用されていたものとみられる。

10　大坂木津川絵図

1枚　〔正徳元年（1711）〕
T8-30　49.8 × 82.2

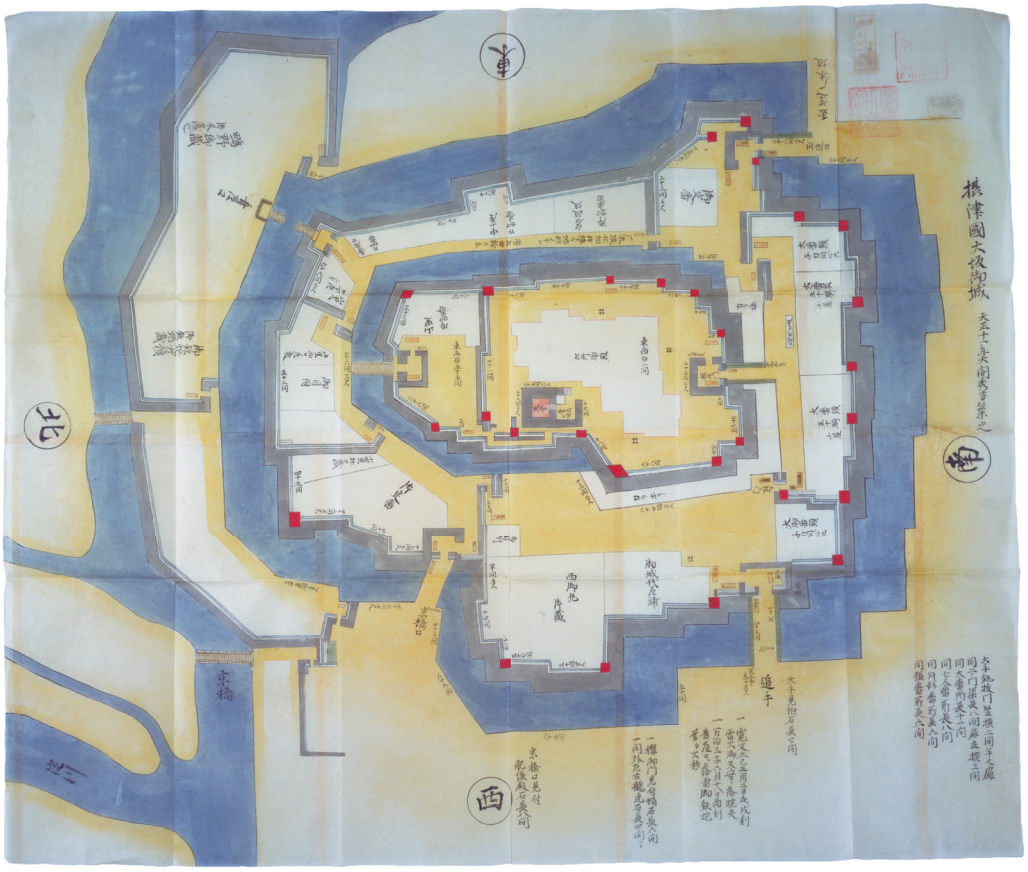
本図を入れていた袋の上書きに「正徳元卯ノ歳、朝鮮人来帰之節、御借上船御用ニ東原半左衛門大坂江参候節取戻指出候」とあり、正徳元年（1711）の朝鮮通信使来朝とかかわって作成された絵図とみられる。大坂の木津川口において、国書、正使、副使などが乗る船の名称やその順番が示されている。



11　〔摂津国大坂御城図〕

1鋪　年月日未詳
T3-321　77.7 × 92.2

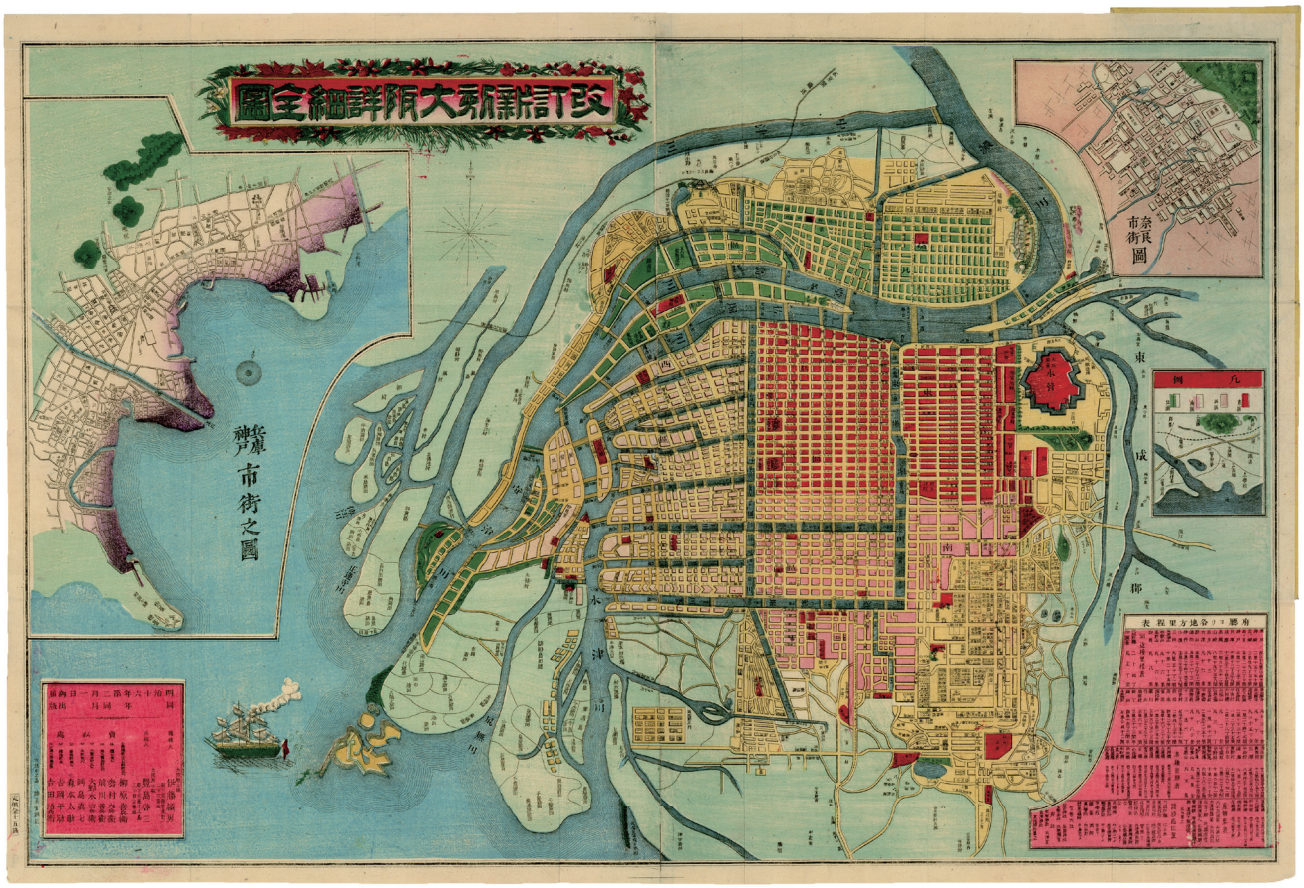
徳川時代の大坂城を描いた大坂城図・略図は、池田家文庫に6点みられる。本図の書き込みの中には「万治三子年」（1660）の記述があり、この時期以降の作成とみられるが、詳細は不明である。各種の屋敷や蔵の名称が記されており、図中の赤色部分は櫓を示している。



12　改訂新版大阪詳細全図

1 枚　明治 16 年（1883）
T9-6　48.4 × 71.1

大阪市街の地図であり、地名、通り、寺院などの詳細な情報や各区分けが示されている。この他、兵庫神戸と奈良の市街図に加えて、大阪府庁から各地方への里程が記され、実用性の高い絵図といえる。

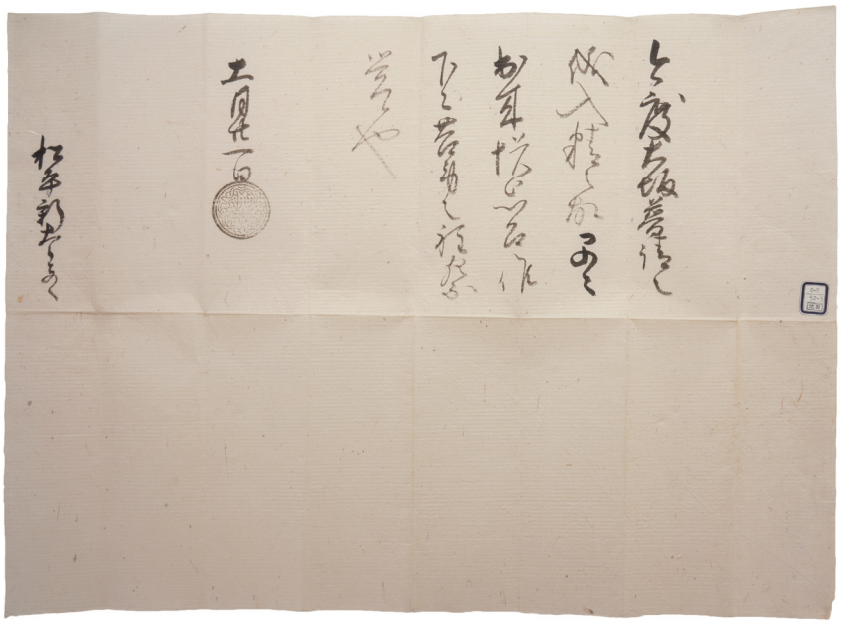


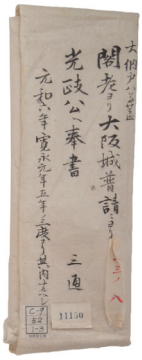
【大坂における岡山藩】

13　〔松平新太郎宛徳川秀忠黒印状〕

1 通　〔元和 6 年（1620）〕11 月 21 日
C9-52-3　46.4 × 64.2

2 代将軍徳川秀忠が松平新太郎（池田光政、当時鳥取藩主）へ直接に感謝の意を伝えた直状。大坂城普請の完成に際して、その苦労をねぎらっている。黒印状にふさわしく、用紙も大判の檀紙が使われている。

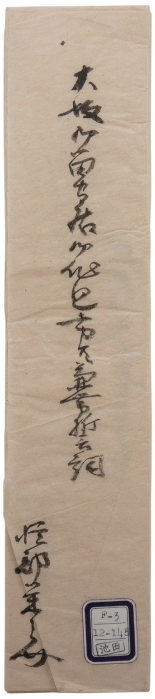


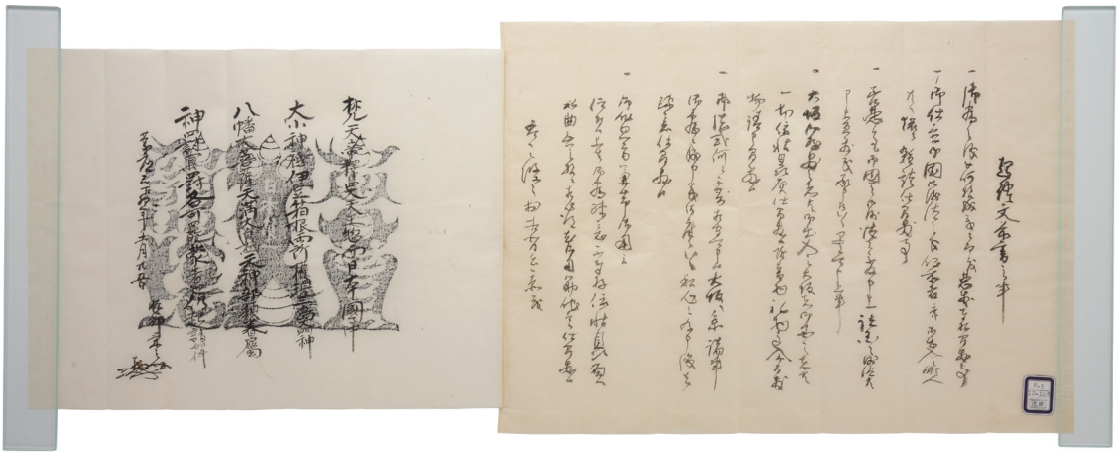


14　大坂御留守居御作廻方共兼帯誓詞（付　熊野本宮牛王宝印）

1 通　慶応 3 年（1867）11 月 25 日
F3-12-(148)　28.3 × 71.5

大坂留守居および作廻方に任命されるにあたって差し出した起請文である。前書きでは、仕置についての情報を出入の町人に漏らさないことや、音物・礼物を受け取らないことなど、職務上守るべき事項が記されている。後半部では、前書きの起請の内容に背いたならば、神罰・冥罰が下ることとされている。

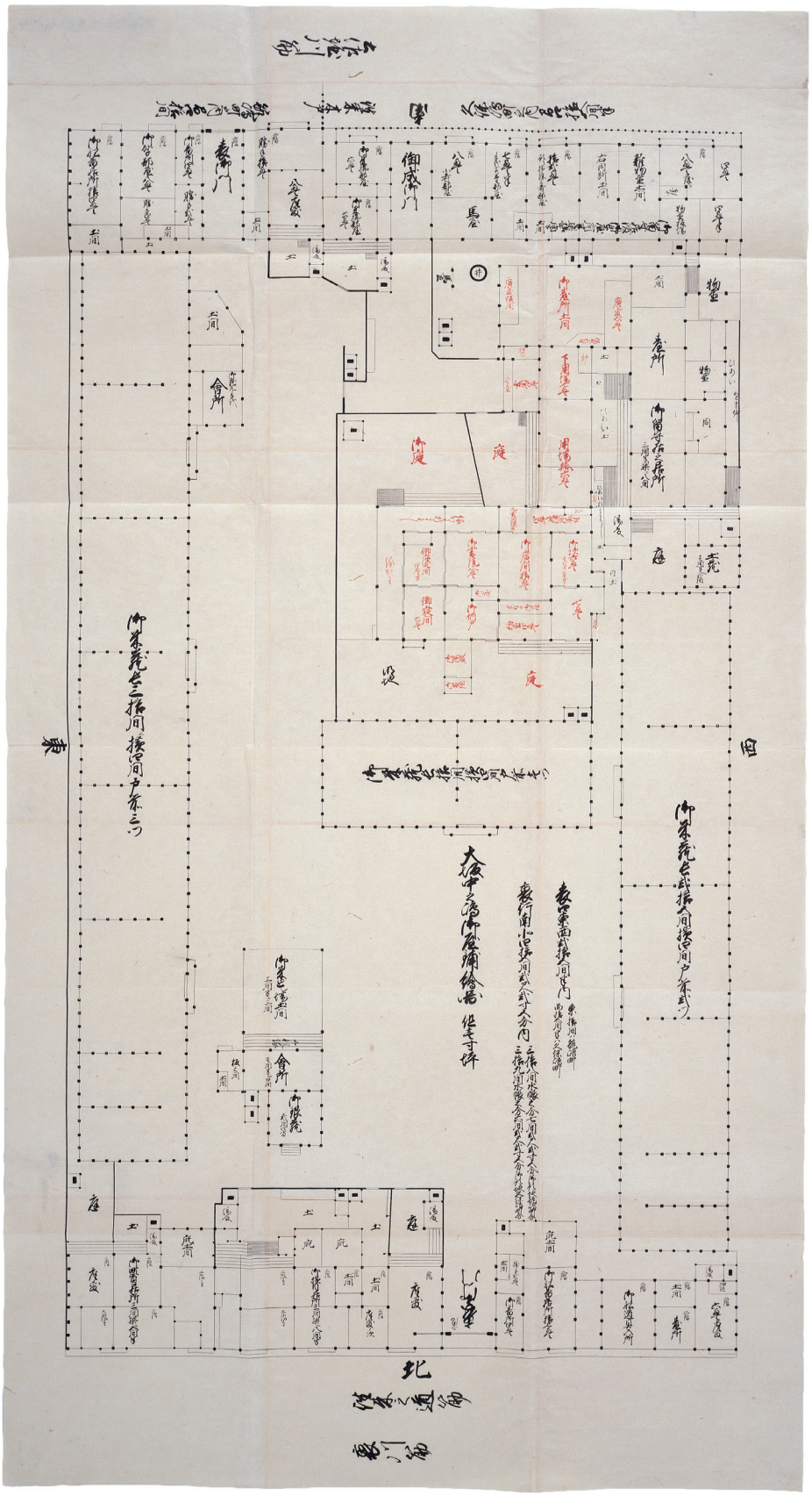




15　大坂中之嶋御本屋鋪絵図

1鋪　年月日未詳
T5-69-1　167.0 × 90.2

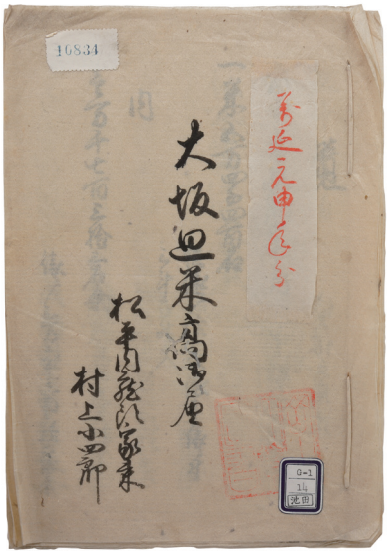
大坂中之島には諸藩の蔵屋敷が集中しており、岡山藩蔵屋敷もおかれていた。本図は岡山藩中之島蔵屋敷の絵図であり、各種の屋敷・蔵の間取りが一覧できる。南北に長い米蔵が敷地内の東西２ヶ所に設置されており、国元から運ばれた蔵米が保管されていた。

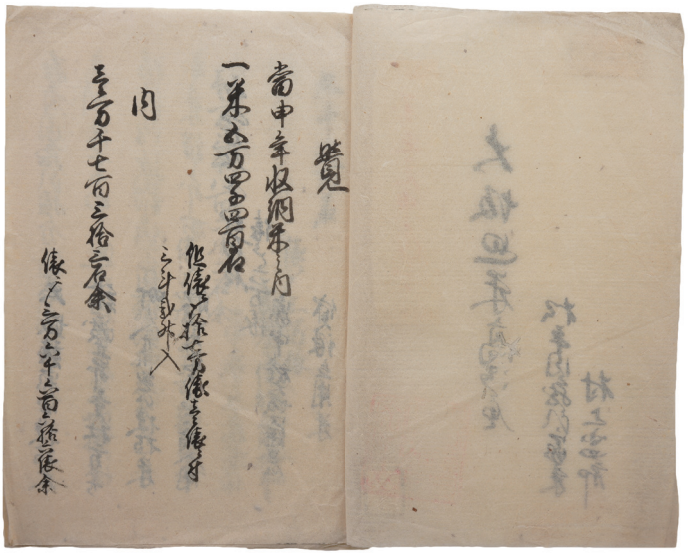


16　大坂廻米高御届

1 冊　万延元年（1860）11 月
G1-14　24.4 × 17.0

岡山藩から大坂への廻米の石高・俵数やその用途が記されている。例年は 5 万 4400 石（17 万俵）の廻米高であったが、夏の長雨のために収穫高が減少しており、当年はやむを得ず 3 万 2000 石（10 万俵）のみの廻米としている。この廻米が蔵屋敷へと納められていた。

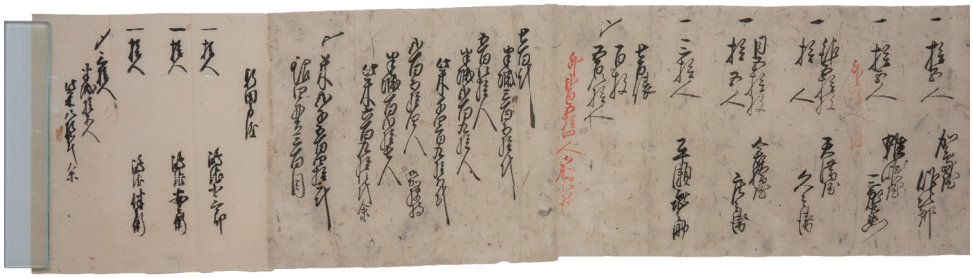




17　覚（大坂町人扶持米支給名簿）

1 通　年月日未詳
G2-77　15.5 × 113.7

岡山藩大坂蔵屋敷と金融・商業面で関わりがあった大坂の商人・両替商 18 名の名前と扶持米銀が記されている。筆頭には両替商の山中（鴻池）善右衛門がみられ、その扶持米は他と比べて圧倒的に多い。同人は岡山藩へ多額の大名貸を行っており、同藩の大坂での資金調達にとって重要な役割を担っていた。

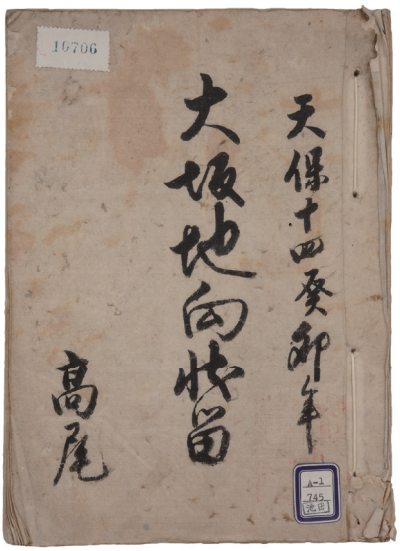


（1 通の文書の画像を中ほどで切り、2 段にして掲げた）

18　大坂地向状留

1 冊　天保 14 年（1843）
A1-745　23.2 × 16.7

本文書は、岡山藩大坂留守居の高尾助太が諸藩の大坂留守居などへ送った書状の写しをまとめた冊子である。展示箇所では、琉球使節の逗留や木津川口での乗船について、高尾が薩摩藩大坂留守居の高崎金之進へ確認しており、各藩の留守居同士が情報のやりとりを行っていたことがわかる。



19　少将御任官京大坂伏見御下知等

1 冊　嘉永 7 年（1854）
C4-65　27.5 × 20.0

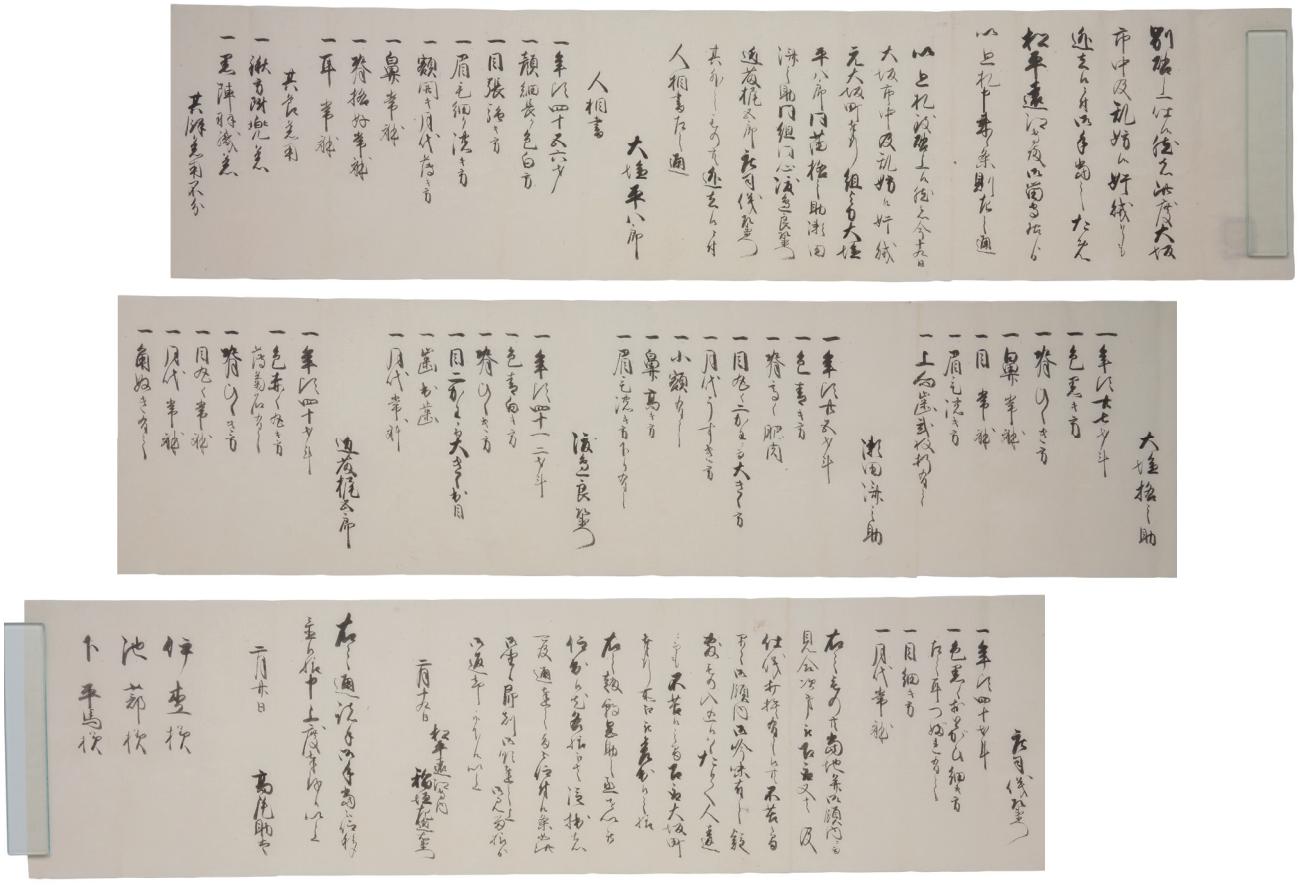
嘉永 7 年（1854）、岡山藩 8 代藩主池田慶政が従四位下左近衛権少将に任じられている。本史料は、大坂城代など上方の幕府重役に対して、少将拝任の挨拶や贈り物を行った際の文書の写しをまとめたものである。

【都市大坂と岡山の関係】

20 〔伊木杢・池田蔀・下方平馬宛高尾助太書状〕

1通 〔天保8年（1837）〕2月20日
L5-64-1 18.2 × 210.3

天保8年（1837）2月19日、大坂市中にて大塩平八郎が門人らとともに武装蜂起している（大塩平八郎の乱）。松平遠江守（尼崎藩主松平忠栄）家中の留守居役から岡山藩留守居役高尾助太のもとへ乱の状況や大塩一党の人相書が伝えられており、高尾は速やかに岡山藩国元へと情報を伝えている。

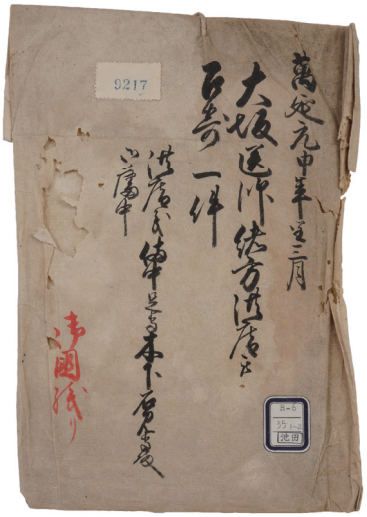


（1通の文書を中ほどで切り、3段にして掲げた）

21 〔袋〕（大坂医師緒方洪庵被召寄一件）

1袋 万延元年（1860）閏3月
R6-35 23.8 × 15.7

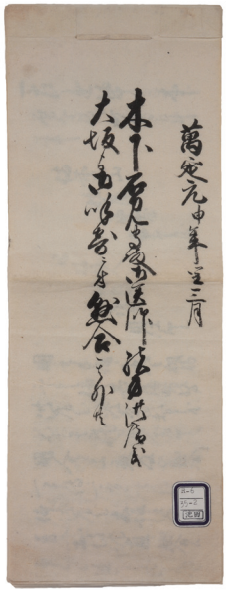
岡山藩8代藩主池田慶政の治療のため、大坂市中の医学・蘭学塾である適塾の塾頭緒方洪庵（備中国足守藩士）を呼び寄せた際のやりとりに関する文書を収めていた袋である。



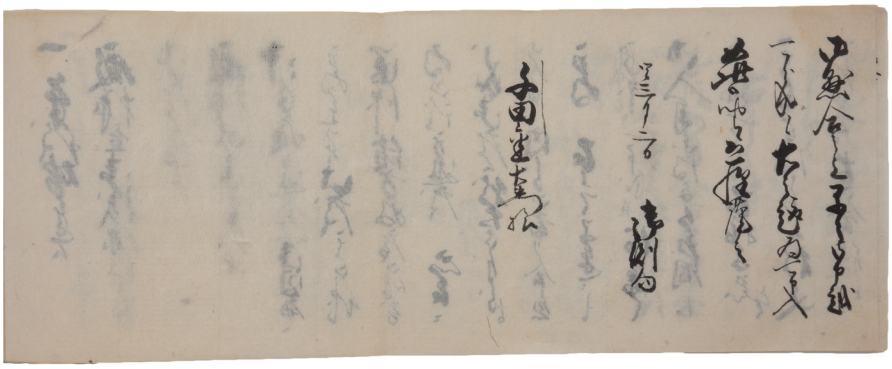
22　木下石見守殿御医師緒方洪庵義大坂ゟ御呼寄ニ付懸合其外共

1 冊　万延元年（1860）閏 3 月
R6-35 -2　12.3 × 33.8

岡山藩 8 代藩主池田慶政は「昨年」（安政 6 年〈1859〉）より手の痛みを発しており、「当年」（万延元年〈1860〉）の春には腫れもみえるようになった。展示箇所では、緒方洪庵を呼び寄せるため、岡山藩の御側向から大坂留守居の千田金右衛門へ、洪庵の状況や呼び寄せるためにかかる費用などを問い合わせている。



（表）



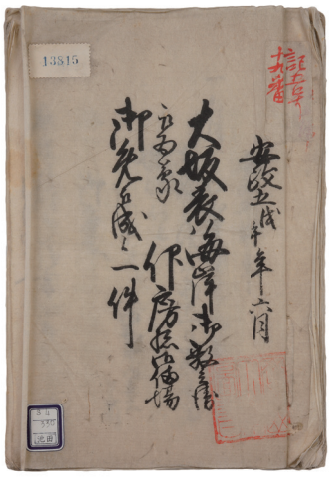
（裏）

（文書は 1 つの丁の表裏にわたっている）

23　大坂表海岸御警衛被為蒙仰房総御備場御免被成候一件

1 冊　安政 5 年（1858）6 月
S4-330　25.0 × 17.2

嘉永 6 年（1853）以降、岡山藩は房総半島の警備を任されていたが、安政 5 年（1858）にその任を解かれ、代わりに大坂沿岸の警備を担当することとなった。展示箇所は、岡山藩小仕置の岸織部から仕置の伊木若狭（家老、後の三猿斎）へ、上記の警備の所替えが伝えられた書状の写しである。



24 〔摂海御警衛場所并御台場御絵図〕

1枚　年月日未詳
T12-104-1　54.8 × 109.6

安政5年（1858）～文久3年（1863）の岡山藩による摂海警備の担当箇所と台場を描いた絵図である。岡山藩は矢倉・嶋屋・布屋新田などの台場を担当していた。本絵図では、海上や河口に向けて砲台が設置されていること、警備のための砲台や橋の普請が行われていたことなど、警備体制の内実がうかがえる。

25 〔願書案〕（御警衛御免之節大坂表御陣屋之儀ニ付書類）

1通　文久3年（1863）
H6-121-4　16.0 × 46.5

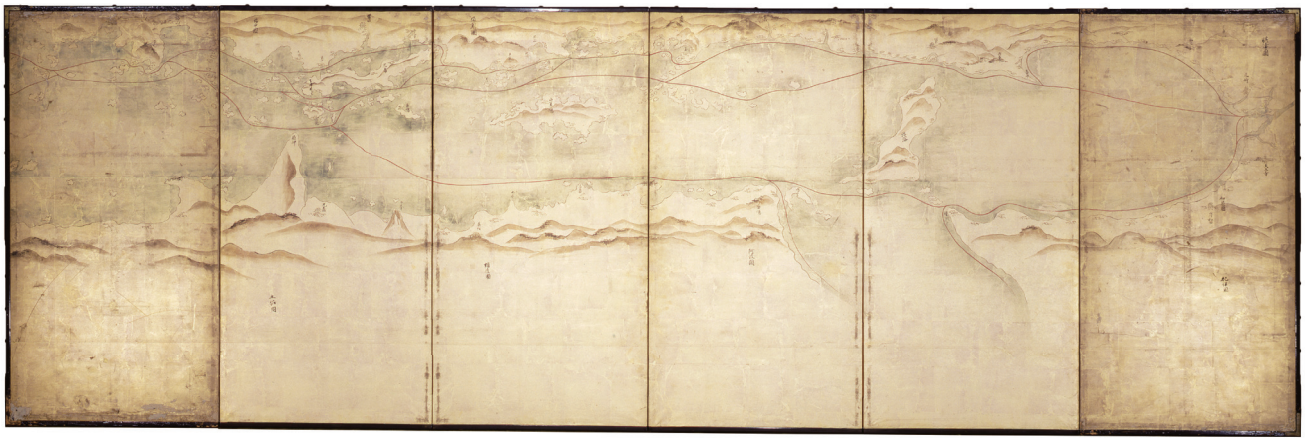
文久3年（1863）、岡山藩は摂海警備の任を解かれ、備中沖・塩飽海警備へと所替えになった。この時、大坂表の陣屋（摂津国西成郡川崎村）を引き続き使用できるように願い出ており、他史料の記述からこの願い出は認められたことがわかる。

【林原美術館出展資料】

林１　御船屏風

６曲１双　江戸時代　紙本著色
屏風 102　93.5 × 284.4

初代岡山藩主の池田光政（1609 ～ 1682）が船中で使用したと伝えられる屏風。両面を金地とし、表面には右隻が江戸の新橋から遠江国にある浜名湖畔の舞阪まで、左隻が遠江国の今切から近江国の勢多までの景観図を描く。また裏面には尼崎から、九州の豊前国に至る航海図を描いており、本展では裏面を展示している。なお表面上部には起すと棚になる漆塗板が取り付けられており、使用するにあたっての細かな工夫が凝らされている。岡山藩主池田家伝来品。



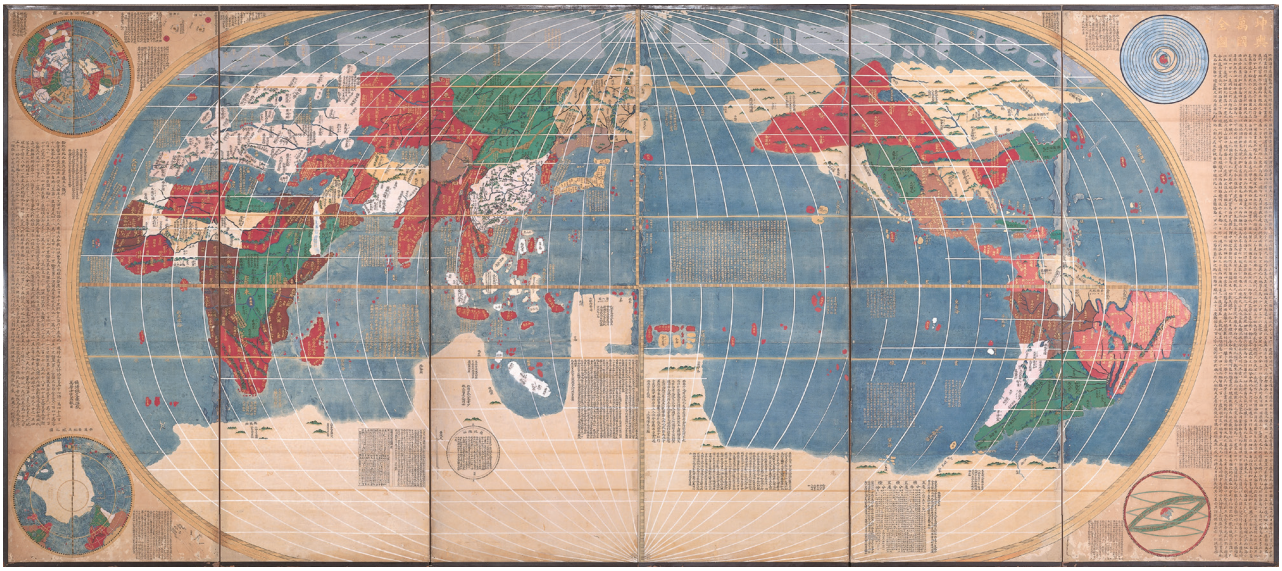
（左隻裏）

（右隻裏）

林２　坤輿万国全図屏風

６曲１隻　江戸時代　紙本著色
屏風 32　164.8 × 376.0

坤輿万国全図とは、1602 年にイタリア人宣教師のマテオ・リッチ（1552 ～ 1610）が中国で刊行した世界地図で、中国を中心に描かれている点が最大の特徴である。日本列島を見ると本州、四国、九州は比較的正確であるが、北海道の位置に北陸道がある。また南極大陸がオーストラリアを含む巨大な大陸（メガラニカ）として描かれており、当時の人々の地理的な感覚や世界観が見て取れる。本屏風はこの坤輿万国全図を彩色して屏風に仕立てたもので、岡山藩主池田家に伝来した。江戸時代中期～後期頃の作と考えられる。



林３　平家物語絵巻　巻第八（中）「水島合戦」

土佐左助筆　江戸時代　紙本著色
邦画 272-2　35.1 × 90.9

寿永２年（1183）、進軍してきた源氏軍と、都を落ちて四国の屋島を拠点としていた平氏軍とが備中国水島（現倉敷市玉島）で行った合戦の様子を描く。軍船を繋ぎ合わせて歩み板を渡し、陸地同様に戦った平氏軍（画面中央）の前に源氏軍は苦戦する。源氏軍の大将、矢田義清を乗せた船が沈没（画面上）し、義清が水死するなど源氏軍は大敗を喫し、京都へと敗走した。本絵巻は全 36 巻からなる「平家物語絵巻」の１巻。705 場面が収められ、豪華な料紙、丁寧な作り、鮮やかな彩色など贅をつくした本作は越前藩主松平家に伝わったもので、現在は林原美術館に収蔵されている。

番号	資料名	員数	年代	整理番号	法量(h×w, cm)
	【瀬戸内海沿岸と船】				
1	備前国絵図（複製）	1鋪	明和 2 年(1765)11 月	T1-2	163.2×199.8
2	備中国絵図	1鋪	年月日未詳	T1-26	104.0×67.0
3	〔備中国領分海岸絵図〕	1枚	年月日未詳	T8-31-2	61.8×90.2
4	御船手屋敷絵図	1枚	〔安政 2 年(1855)正月ヵ〕	T8-33	70.8×132.7
5	〔御船入絵図〕	1枚	年月日未詳	T8-34	56.2×123.4
6	〔池田備前守手船通行手形〕	1通	慶応 4 年(1868)9 月	N2-91-10	35.2×48.7
7	岡山蒸気船規則	1枚	辛未〔明治 4 年(1871)〕正月	S6-93-(2)	24.3×32.9
	【大坂・岡山をむすぶ海の道】				
8	〔瀬戸内海東部絵図〕	1枚	年月日未詳	T8-4-3	40.1×83.9
9	淀川筋図	1枚	弘化 4 年(1847)	T9-7	40.5×65.4
10	大坂木津川絵図	1枚	〔正徳元年(1711)〕	T8-30	49.8×82.2
11	〔摂津国大坂御城図〕	1鋪	年月日未詳	T3-321	77.7×92.2
12	改訂新版大阪詳細全図	1枚	明治 16 年(1883)	T9-6	48.4×71.1
	【大坂における岡山藩】				
13	〔松平新太郎宛徳川秀忠黒印状〕	1通	〔元和 6 年(1620)〕11 月 21 日	C9-52-3	46.4×64.2
14	大坂御留守居御作廻方共兼帯誓詞（付 熊野本宮牛王宝印）	1通	慶応 3 年(1867)11 月 25 日	F3-12-(148)	28.3×71.5
15	大坂中之嶋御本屋鋪絵図	1鋪	年月日未詳	T5-69-1	167.0×90.2
16	大坂廻米高御届	1冊	万延元年(1860)11 月	G1-14	24.4×17.0
17	覚（大坂町人扶持米支給名簿）	1通	年月日未詳	G2-77	15.5×113.7
18	大坂地向状留	1冊	天保 14 年(1843)	A1-745	23.2×16.7
19	少将御任官京大坂伏見御下知等	1冊	嘉永 7 年(1854)	C4-65	27.5×20.0
	【都市大坂と岡山の関係】				
20	〔伊木杢・池田蔀・下方平馬宛高尾助太書状〕	1通	〔天保 8 年(1837)〕2 月 20 日	L5-64-1	18.2×210.3
21	〔袋〕（大坂医師緒方洪庵被召寄一件）	1袋	万延元年(1860)閏 3 月	R6-35	23.8×15.7
22	木下石見守殿御医師緒方洪庵義大坂ゟ御呼寄ニ付懸合其外共	1冊	万延元年(1860)閏 3 月	R6-35-2	12.3×33.8
23	大坂表海岸御警衛被為蒙仰房総御備場御免被成候一件	1冊	安政 5 年(1858)6 月	S4-330	25.0×17.2
24	〔摂海御警衛場所并御台場御絵図〕	1枚	年月日未詳	T12-104-1	54.8×109.6
25	〔願書案〕（御警衛御免之節大坂表御陣屋之儀ニ付書類）	1通	文久 3 年(1863)	H6-121-4	16.0×46.5
	【林原美術館】				
林1	御船屏風	6曲1双	江戸時代	屏風102	93.5×284.4
林2	坤輿万国全図屏風	6曲1隻	江戸時代	屏風32	164.8×376.0
林3	平家物語絵巻　巻第八（中）「水島合戦」	1巻	江戸時代	邦画272-2	35.1×90.9

1 ～ 25 は岡山大学附属図書館所蔵
林 1 ～林 3 は林原美術館所蔵

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会　期	会　場
平成９	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月２日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野　岡山藩の新田開発（1）	2002年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い　岡山藩の新田開発（2）	2003年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月１日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山　池田家文庫絵図名品展	2005年９月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月２日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月１日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年９月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月６日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月４日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月１日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月８日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月３日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月３日～11月18日	岡山シティミュージアム
令和元	武家と天皇	2019年10月19日～11月４日	岡山シティミュージアム
令和２	岡山・大坂と海の道	2020年10月31日～11月15日	岡山シティミュージアム

記念講演会

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期　日
平成９	絵図を読む	岡山大学文学部教授　倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員　竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部教授　千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授　川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授　宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授　名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授　杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る　～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所　乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授　倉地克直	2005年10月１日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授　高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長　在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授　池内敏	2008年11月１日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授　辻本雅史	2009年10月３日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授　平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授　荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授　藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授　横山伊徳	2013年11月９日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授　宮地正人	2014年11月８日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授　横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授　岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授　三宅正浩	2017年11月12日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長　在間宣久	2018年11月10日
令和元	『大嘗祭』の誕生 ―古代の皇位継承儀礼の生成と変異―	専修大学名誉教授　荒木敏夫	2019年10月26日
令和２	西国の武士、大坂に出張する ―蔵屋敷と大坂城加番―	兵庫県立歴史博物館長　藪田貫	2020年11月７日

パネルディスカッション

年度	パネルディスカッション		期　日
平成23	国絵図復活	東京大学史料編纂所教授　杉本史子 東京藝術大学大学院准教授　荒井経 電気通信大学准教授　佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程　中村裕美子 国絵図研究会会員　青木充子 ［司会］東京大学大学院准教授　中村雄祐	2011年10月23日

令和２年度企画展 池田家文庫絵図展 岡山・大坂と海の道

発行日／令和２年 10 月 31 日

主　催／岡山大学附属図書館 岡山シティミュージアム

共　催／林原美術館

発　行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

印　刷／株式会社プリント・ケイ

岡山大学学都基金

OKAYAMA UNIVERSITY

―地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する―

本学では、教育活動、国際交流及び社会・地域貢献の一層の進展を図り、イノベーション創出・学都創成・グローバル化の推進に資することを目的として、「岡山大学学都基金」を設置し、平成27年4月から募金活動を行っております。学都基金の支援事業は、主に①地域振興・イノベーション創出支援事業、②教育活動支援事業、③研究活動支援事業、④修学支援事業、⑤SDGs推進事業の5つに区分しております。

現在、大学の運営基盤を支える運営費交付金は毎年減少傾向にあり、本学を取り巻く環境は大変厳しくなってきております。卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、「岡山大学学都基金」についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

古本募金によるご寄付も受付中

岡山大学 古本募金
OKAYAMA UNIVERSITY

読み終えた本等で支援ができます

お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局（総務・企画部総務課）

〒700-8530　岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL：086-251-7009　E-mail：kikin@adm.okayama-u.ac.jp
電話受付：9:00-17:00（土・日・祝日除く）

寄付金の申込方法

左の連絡先に、ご住所とお名前をお知らせください。折り返しお送りするパンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。本学へのご寄付は、税制上の優遇措置を受けていただけます。（寄付金控除の対象となります。）
詳細は、ホームページをご覧ください。

岡山大学学都基金　検索

学都基金ホームページ
https://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/index.html

池田家文庫資料叢書

岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編（編集代表：倉地克直）

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。

A5 版 / クロス装･ケース付

池田家文庫資料叢書３
「御留帳評定書」上･下巻　各１８,０００円（税別）

【上巻】本文６０５頁、解説１９頁　【下巻】本文５５８頁

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録した、当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料です。

池田家文庫資料叢書２
「朝鮮通信使饗応関係資料」上･下巻

【上巻】本文５９８頁、解説２２頁　１１,１１１円（税別）
【下巻】本文７４９頁、解説２５頁　１２,０００円（税別）

池田家文庫資料叢書１
「御留帳御船手」上･下巻　各７,０００円（税別）

【上巻】本文６２７頁、解説９頁　【下巻】本文７１７頁

池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料「池田家文庫」の絵はがきです

８枚入り
２８６円（税別）

※絵はがきは
出版会のみでの販売です

８枚入り
２８６円
（税別）

**岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき**

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせ下さい。
メールでのご注文はこちらへ → okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel：086-251-7306　Fax：086-251-7314

岡山大学出版会 | 検索
http://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/